

LOX-index Newsletter

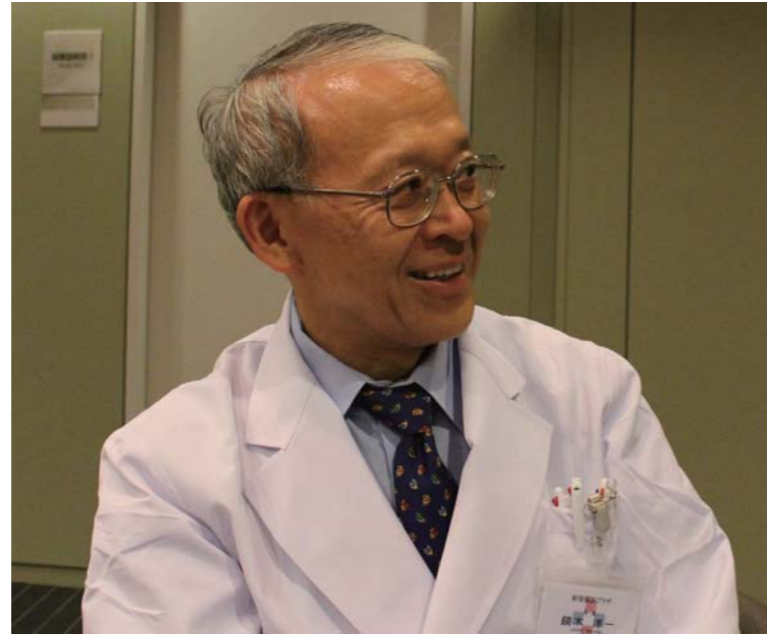
◆LOX-index®を導入されたきっかけについて教えてくださいませんか？

当院では2015年の4月より検査の受付を開始しております。私は2016年の4月から当プラザの所長に就任したため、オプションとしては既に受付が始まっていた形になります。ただ、LOX-index®は動脈硬化性疾患の潜在的なリスクとなる「酸化」と「炎症」を捉えるマーカーとしては有用であると考えております。特に、喫煙や高血圧、糖尿病や脂質異常など従来の動脈硬化リスクが著明では無い方に対しては、隠れたリスクを把握するための指標として、またその逆に動脈硬化リスクの高い方には生活習慣の改善、例えば禁煙外来などの受診者への動機づけの補助材料としても有用であると考えております。

また先の長野県松本市で行われた日本人間ドック学会のランチョンセミナーでの井上先生の講演内容(*1)にもあった通り、心血管イベントの予測指標であるフラミンガムリスクスコアとも良い相関があるという点で、心血管イベントの総合的な評価指標としても有用であると考えております。

◆検査のご活用方法を教えてくださいませんか？

健康診断や人間ドックのオプションとして受診者の方には案内しております。採用を開始した2015年4月は人間ドックのオプションとして受付を行い、2016年4月からは生活習慣病健診や巡回健診でもオプションとしても受付を開始致しました。オプション案内、紹介に関しては、問診票キットなど事前に受診者にお送りをする資料の中に、オプション検査の一覧と併せてLOX-index®の紹介パンフレットを同封して案内しております。



◆受診者の方の評判についてお聞かせいただけますか？

今年は人間ドックに加えて生活習慣病健診や巡回健診でも受付を開始したこともあり、選択する人は順調に増えていらっしゃるようです。現在は、おおよそ毎月200~300名程度の方がLOX-index®をオプションとして選択されております。やはり受診者にとっても脳梗塞や心筋梗塞という疾患は興味関心が高いこと、採血で手頃に受けれるということが受診につながっているのでしょうか。

また、協会全体としても伊勢崎やとちぎ、山形、関連施設の新潟や長岡でもオプションとして受付を開始しており、件数は順調に増えているようですね。受診者の年代でいうと40代からと比較的若い方も多く受診頂いているようです。今後も幅広い年代の方に受診頂き、二次検査や生活習慣改善などの行動変容のきっかけとなってくれるといいですね。

◆今後の展望をお聞かせいただけますか？

私の個人的な興味としては、今後LOX-index®が動脈硬化を含む「総合的なQOL維持の指標」として研究が進んでくると面白いのではないかと考えております。例えば、血管と骨という観点でいうと、種々の研究からも明らかになっているように、骨粗しょう症の方では動脈硬化症のリスクが高く、その進行度も相関してくることが示唆されています>(*2)そういった骨-血管相関の観点からすると、今後LOX-index®が骨粗しょう症や認知機能の低下といったフレイルの予防にも役立てられるようになる可能性はあるのではないかと考えています。

もちろん、私たち予防医学に携わるものの使命としては、「がんや生活習慣病の早期発見」これも大事な使命です。ただ、最終的な目標としては健康診断・人間ドックを通じて「健康を維持しいつまでも元気に過ごして頂く。」これが重要なのです。これをより多くの人が実現できるような「総合的な予防のための指標」としてLOX-index®が広がってくると面白いかもしれないですね。

一貴重なお話とご意見をありがとうございました。

(*1) 2016年7月28日(木)に行われた第57回日本人間ドック学会学術大会NKメデコ共催ランチョンセミナーにて神戸労災病院副院長/循環器内科部長の井上信孝先生に登壇頂き、「ストレス応答の視点からの脳心血管病のリスク評価~LOX-index®の有用性~」の演題にてご講演を頂きました。
(*2) 動脈壁の石灰化が、骨密度低下に関連することが報告されています (Persy V, et al. "Vascular calcification and bone disease: the calcification paradox." Trends in Mol Med 2009; 15:405-416.)
閉経後女性を対象とした骨粗鬆症の臨床試験において、心血管病変に対する危険因子 (既往歴、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、喫煙) を補正した後も、心血管イベントの発症率は、骨粗鬆症群では骨量減少群に比べ有意に高率であることが報告されています (Tanaka LB, et al. "Relationship between osteoporosis and cardiovascular disease in postmenopausal women." J Bone Miner Res 2005; 20: 1912-1920.)

一般財団法人 日本健康管理協会 新宿健診プラザ

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-31-12 <http://nikkenkyo.or.jp/shinjuku>



昭和39年の開設以来、健康診断の専門施設として人間ドックや生活習慣病予防健診、一般健診、特定健診などの予防医療事業を行っております。東京都新宿区の中心街に位置し、都心の様々な地域からもアクセスしやすく受診者に寄り添った健診を提供しています。安全で安心な施設を目指してプライバシーマークを取得するなど、個人情報保護にも力を注いでおります。時代と共に変化する労働環境、国民の健康意識の向上、医療の進歩に合わせ、医師をはじめとするスタッフの研鑽と医療機器等の施設の充実に取り組んでおります。



一般財団法人 日本健康管理協会 新宿健診プラザ
所長 鎬木 淳一 先生 / Dr. Junichi Kaburaki

【略歴】

1980年、慶応義塾大学医学部卒業
東京電力病院内科科長、新赤坂クリニック院長補佐兼医務部長、
日本テレビ放送網(株)日本テレビ汐留診療所所長を経て、
2016年4月から、一般財団法人日本健康管理協会 新宿健診プラザ 所長に就任

【兼任】

慶応義塾大学医学部内科学教室非常勤講師

【資格】

日本内科学会総合内科専門医 /
日本人間ドック学会人間ドック健診専門医および人間ドック健診指導医 /
日本抗加齢医学会抗加齢専門医 / 日本未病システム学会未病認定医 /
日本医師会認定産業医 / 労働衛生コンサルタント(保健衛生) /
日本リウマチ学会リウマチ専門医およびリウマチ指導医

【公職】

日本人間ドック学会・理事 / 日本総合健診医学会・審議員
一般社団法人東京都総合組合保健施設振興協会・精度管理推進委員会副委員長など



新宿健診プラザ
SHINJUKU KENSHIN PLAZA